

デジタルデータを活用した自治体史
— 品川区史の試み —

はじめに

東京23区の南東部に位置する品川区（人口：368,661人、面積：22.72km² 2013年12月1日現在）では、区史『歴史と未来をつなぐまち しながわ — 品川区史2014 —』（以後、「新区史」という）を2014年8月に刊行する。品川区としては1976年に刊行完了した『品川区史』（7編・10冊。以後、「現行区史」という）以来、約40年ぶり、2度目の区史の刊行である。

「新区史」は全1巻、A4判・約400ページの冊子とDVDディスク2枚からなる。冊子は、一般区民の地域の歴史を知りたい・伝えたいという要求に応えるため、ビジュアル中心・見開き完結で、「分かりやすさ」を目指した内容となっている。一方、2枚のDVDディスクは、データ・ディスク、マルチメディア・ディスクからなり、データ・ディスクはパソコンで、マルチメディア・ディスクはパソコンおよび家庭用DVDプレーヤーで閲覧できるものとした。

本稿では、「新区史」で多くのデジタルデータを収めた意図、その内容と仕様を紹介し、ご教示・ご指摘を頂戴するとともに、今後自治体史編さんで同様の試みをする際の参考にしていただければ幸いである。

制作意図と概要

筆者は自治体史に添付されたデジタルメディアは冊子の「添え物」的な扱いを受けていると常々考えてきた。「新区史」の冊子部分の仕様とコンセプトは既定のものとされたため、そこに盛り込めない内容、デジタルデータでしか収められない内容をデジタルメディアに収めることとした。よって、冊子であれば「資料編」として刊行されるであろう内容を、デジタルデータならではの長所を活かし

データ・ディスクに入れ、家庭のテレビで鑑賞できる動画・音声等をマルチメディア・ディスクに収録した。メディアは最も普及しているDVDディスクとし、盛り込む内容とその量から、2枚それぞれ片面2層とした。収録にあたっては、現在資料的価値があるものだけでなく、「いま」を伝えるアーカイブ的なものを積極的に加え、特に文章・写真では表現できないものを収めるよう意識した。

おもな収録物

おもな収録物を、データベース、マルチメディアの順で紹介しよう。

(1) 史料の写真および釈文

「現行区史」以後、発見ないし品川区所有となった史料（古文書2点・計159丁、典籍1点、絵図1舗）をカラー写真で収めるとともに、古文書・典籍は釈文と対照でき、絵図はトレースと比較できるようにした。たやすく原史料にあたることができ、拡大により細部の確認ができる。虫損と文字の判別も、モノクロのマイクロフィルムよりは数段容易となる。

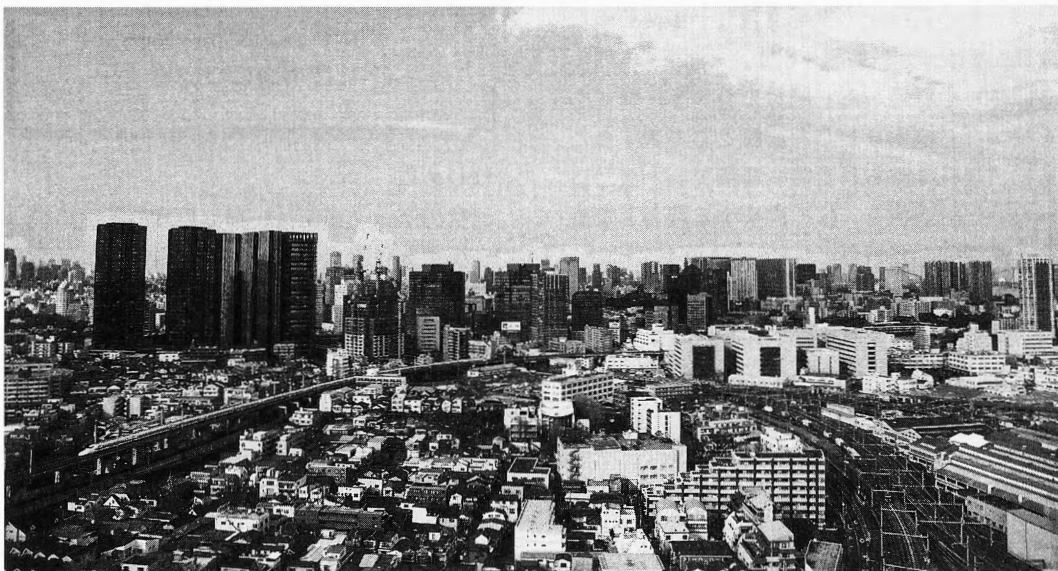
(2) 新聞折り込みチラシ

品川区立品川歴史館では、1988年から毎月1日号の新聞折り込みチラシを「保管」している。品川区の大森貝塚を発見したモースの収集癖にちなみ、当該資料だけでなく様々な今のモノを、とりあえず箱に収め将来の資料としているのである。そのうち1988年から2005年までの新聞折り込みチラシを整理し、画像を収録することとした。重複を除く点数は6,369、うち著作権や肖像権の問題をクリアし、広告主が承諾した約2,000点を収める見込みである。

バブル期の地価高騰による郊外物件中心から湾岸部はじめ区近郊にシフトした不動産広告、求人広告にみる仕事と雇用条件の変化、地元商店等の開店広告、服装・化粧の変化など、現在でも十分に資料的価値を持つ内容である。

(3) 新旧住居表示対照表

1960年代の住居表示改訂により多くの自治体で町の名前・「住所」が変わった。品川区では改定時に新旧および旧新の住居表示対照表を製作したものの、そこに世帯主名等が記されているため、個人情報保護の観点から現



定点動画の一コマ 区内西品川から大崎駅方向 2013年2月22日撮影
中央左の建設中のビルは現在竣工し、数年後には東海道新幹線を挟んで右側にも再開発ビルが建つため、数年でこの光景は大きく変わる。

在一般の閲覧に供されていない。

そのため、Excelのシートを町丁ごとに作り地域単位でブックとし、検索可能な形で新旧の住居表示を調べることができるデータとして収めることとした。

このほか、データ・ディスクには、1961年からの品川区関係統計集データ、1947年の創刊時からの区広報紙データ等を収録する。区民・研究者はもちろん、日常実務での職員の活用を想定している。

これ以降は、マルチメディア・ディスクの内容である。

(4) 区内定点動画

数秒に1回の間隔でシャッターを切り、数時間の動きを約2分に収める定点動画で、区内各地の光景を収めた。商店街の賑わい、間もなく再開発で消える町並み、鉄道が縦横に走り、都心の高層ビルの上に東京タワーと東京スカイツリーが頭をみせる光景などである。

「いま」を記録する資料として、撮影日時・場所・アングルを画面最後に明記してある。さらにバックに音楽が流れる内容となっており、「鑑賞」も想定している。

(5) 伝統芸能

国・都・区指定の無形文化財(伝統芸能)4件(6団体)の動画(3件)・音声(1件・3団体)を収録した。複数のカメラ・マイクを使い、しっかりと記録として残すとともに、祭礼等限られた時・場所でしか演じられない伝統芸能を、広く理解する機会となることを意図している。

このほかマルチメディア・ディスクには、様々な映像・写真等が収められる。

仕様

データベースは、JPEG、PDF、Excelファイルからなる。Excelで収めるデータはCSVファイルも合わせて収める。HTMLで記述された画面から閲覧でき、もちろんフォルダ、ファイルにも直接アクセスできるようになっている。HTMLのみでJavaやJavaスク

リプト、Flashなどは使用しない。マルチメディア・ディスクはDVD-Videoである。

このように、将来にわたっても残る「枯れた仕様」にころがけている。さらに先を考えれば、ディスク寿命や技術のパラダイムシフトも懸念されよう。だがマスターは残っており、WebやCATV、さらには現在では想像がつかない方法で「伝える」ことができると楽観している。

おわりに

「新区史」は目下編さん中である。デジタルデータについては、ディスク容量と解像度が問題となっている。不動産広告の細かい文字、古文書の虫損と墨の違いをしっかりと出すために、データ量が左右される可能性もある。

だがこのような試みは、10年前なら困難であつたろう。与えられた条件で、最善のものを作っていくたい。『歴史と未来をつなぐまち しながらわ 一品川区史2014—』にご期待願いたい。

品川区総務課区史編さん担当 寺門 雄一